

# 株式の状況 (平成23年9月30日現在)

## 株式数及び株主数

発行可能株式総数	78,000株
発行済株式総数	19,500株
株主数	636名

## 大株主

	持株数	持株比率
株式会社アルゴグラフィックス	9,900株	50.8%
セイコーインスツル株式会社	4,080株	20.9%
ジーダット従業員持株会	812株	4.2%
岩崎 泰次	200株	1.0%
村瀬 渉	152株	0.8%
石橋 真一	150株	0.8%
中 修一	112株	0.6%
株式会社エスケーエレクトロニクス	90株	0.5%
株式会社図研	90株	0.5%
大日本印刷株式会社	90株	0.5%
凸版印刷株式会社	90株	0.5%

## 所有者別状況

所有者区分	持株数	持株比率
金融機関	50株	0.3%
証券会社	47株	0.2%
その他国内法人	14,344株	73.6%
外国法人等	72株	0.4%
個人・その他	4,687株	24.0%
自己名義株式	300株	1.5%
計	19,500株	100.0%

## 株主メモ

上場市場	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)
事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
配当基準日	3月31日
株式の売買単位	1株

株主名簿管理人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号  
みずほ信託銀行株式会社

	証券会社に口座をお持ちの場合	特別口座の場合
郵便物送付先		〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4
電話お問い合わせ先	お取引の証券会社になります。	0120-288-324 (フリーダイヤル)
お取扱店		みずほ信託銀行株式会社 本店および全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店
ご注意	未払配当金の支払(※)、支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・お取扱店をご利用ください。	単元未満の買取・買増以外の株式売買はできません。電子化前に名義書換を失念してお手元に他人名義の株券がある場合は至急ご連絡ください。

※未払配当金のみ、みずほ銀行 全国本支店でもお取扱いいたします。

公告掲載方法 電子公告とし、次の当社ホームページに掲載します。  
(<http://www.jedat.co.jp/>)  
ただし、事故その他やむを得ない事由により、電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。



本社 東京都中央区東日本橋3-4-14 OZAWAビル  
(平成23年11月28日より移転いたしました。)  
Tel : 03-5847-0312 (代) URL : <http://www.jedat.co.jp>

当冊子に関するお問合せ先  
株式会社ジーダット 経営企画部 E-mail : [corporate.planning1@jedat.co.jp](mailto:corporate.planning1@jedat.co.jp)

※表紙の写真は、日本橋の中心部にある青銅製照明灯の装飾の麒麟像です。  
日本橋が1911年に現在の石造二連アーチ橋に架け替えられてから、今年、架橋100周年を迎えました。  
日本各地へ広がる五街道の起点、日本橋から、JEDATは日本EDAの最先端技術を世界に発信いたします。



株式会社ジーダット

第10期

上半期 株主通信

自平成23年4月1日 至平成23年9月30日



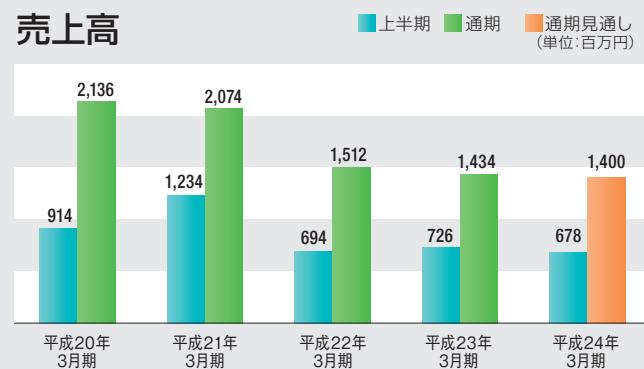
**JEDAT** は **Japan EDA Technologies** の略です。  
 私たちは、日本の EDA のリーダーとして、  
 電子産業の発展に貢献したいと考えています。

**EDA** とは **Electronic Design Automation** の略です。

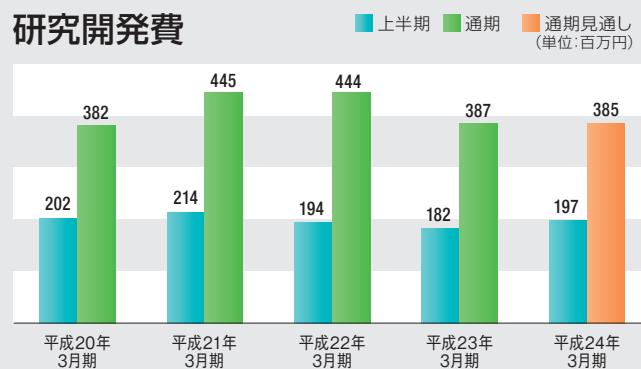
電子機器や電子部品の設計作業を支援、検証するソフトウェア（電子系 CAD）で、  
 設計作業には不可欠なツールであり、設計期間の短縮や設計品質の向上を実現します。

## 財務ハイライト

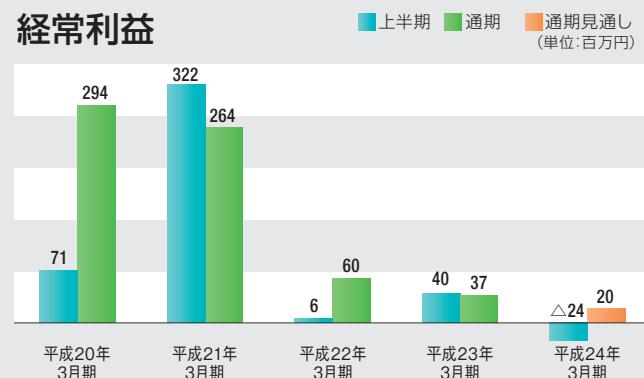
### 売上高



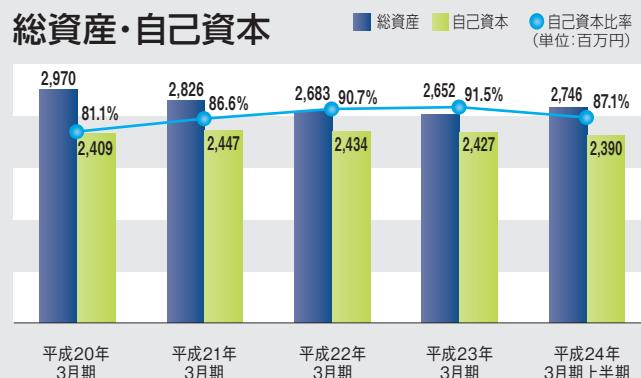
### 研究開発費



### 経常利益



### 総資産・自己資本



## 株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当第10期上半期は、売上高、利益ともほぼ計画どおりでありましたが、前年同期比では、連結売上高が6%減、連結経常利益は64百万円減少して赤字となりました。リーマン危機以降の設計者数減少の流れに伴う国内顧客企業のEDA投資額削減に対応して、当社企業グループはこれまでに当第10期を底とすべく、製品開発・販売両面での様々な対策を実施してまいりました。即ち、開発面では、EDAの原点である生産性向上を「革新」にまで高める目標を掲げ、熟練技術者並みの設計品質を実現する自動レイアウトツールや、設計の手戻りを大幅に削減する高精度なフロアプランツール等の製品を市場に提供し、販売面では、特に海外営業を強化してまいりました。

しかしながら、その後の欧州の債務不安や米国・欧州の失業率の高止まり、その結果としての長期化する超円高や新興国の成長減速不安に加えて、東日本大震災やタイの洪水まで発生し、顧客企業のEDA関連投資額は一層収縮の度合いを強めております。特に国内では、生産拠点の海外移転加速及び業界再編等が進み、市場規模はさらに縮小していくものと思われます。こうした重なる事業環境の悪化に対応して、当社企業グループは、従来の「生産性の革新」を目指した製品開発に加えて、新たに「高信頼性設計」を目指した製品開発強化および海外展開を加速しております。すでに昨年リリースした、PowerVolt（省エネに貢献するパワーデバイスの信頼性を高めるための設計支援ツール）は市場で好評を

いただいておりますし、中国子会社の直販体制を一層強化したことにより、中国での売上も伸び始めております。また、10月に東京と大阪で実施した恒例のプライベートフェアでは、多数の顧客事例発表をいただき、例年に増して大きな反響がありました。まだリーマン危機以降の売上減少分をカバーするまでには至っておりませんが、徐々に成果が見えつつあります。

当下半期は、計画外ではありますが、11月下旬に本社を移転することにいたしました。この移転により、大災害発生時の事業継続性の強化と次年度以降の大幅な固定費削減を目論んでおります。移転費用が当年度に計画外で発生しますが、原価率の低減や諸経費削減等によって、当初計画の達成を予定しております。

大変厳しい状況が続く中でも、社員のスキルアップへの投資及び高レベルの研究開発を維持し、高い意欲を持って、業績の回復に向けて確実に歩みを進めてまいります。株主の皆様には、より一層のご理解とご支援を賜りますよう、どうかよろしくお願い申し上げます。



代表取締役社長  
**石橋 真一**

# 業績の概要

## ほぼ計画通り、前年同期比では減収減益

当社企業グループの主要顧客である国内半導体ならびにFPD業界は、東日本大震災以来、生産面では急速に回復して従来水準に戻りつつありますが、収益面では依然として厳しい状況が続いております。こうした中でも当社企業グループは、高水準の研究開発投資を継続し、生産性の革新に加えて、高信頼性設計を新機軸とした新製品及び新設計フローの提案を積極的に実施してまいりました。また、海外、特に中国子会社の営業体制の強化を図り、中国市場にマッチした製品、サービスの提供を行う体制を整え、直販での販売活動を本格化させました。しかしながら、短期的な成果としては限定的であり、当上半期の業績はほぼ計画通りに推移したものの、前年同期比では減収減益となりました。売上高につきましては前年同期比で6.7%減収の6億78百万円となりました。利益につきましては、各種経費の削減に努めたものの、計画外で、当上半期に本社移転を実施することとしたため、当上半期においても各種資産の償却が発生し、固定費全体としても当初計画及び対前年同期比で増加し、前年同期の31百万円の営業利益に対して38百万円の営業

損失となりました。なお、営業外収益として助成金収入を計上いたしましたが、前年同期の40百万円の経常利益に対して24百万円の経常損失となりました。

製品、サービスの区分では、製品売上高は3.4%減、サービス売上高は9.9%減といずれも前年同期比で減少いたしました。市場別の区分では、半導体市場売上高は、国内市場の投資抑制の影響を諸施策で乗り越えることが出来ず、11.8%減の結果となりました。FPD市場の売上高は、国内市場の投資抑制の影響を受けたものの、設計力強化をねらった一部顧客の積極投資や、中国、韓国等の海外販売の順調な立ち上がりで、ほぼ前年同期並みとなりました。自社開発製品、代理販売製品の区分では、自社開発製品売上高は9.9%減となりましたが、代理販売製品売上高はFPD向け製品の拡販で22.7%増となりました。

第3四半期以降につきましては、当社を取り巻く市場環境は依然として厳しい状況が続くことが予想されますが、各種施策を確実に実施し、期首計画の達成を目指してまいります。

## セグメント別売上高

	第2四半期累計期間（前年同期比、計画比）					通期（前年同期比）		
	平成23年3月期		平成24年3月期			平成23年3月期	平成24年3月期	
	実績	計画	実績	前年同期比	計画比	実績	通期見通し	前年同期比
製 品	360	323	347	△ 3.4%	+ 7.7%	708	735	+ 3.7%
サ ー ビ ス	366	337	330	△ 9.9%	△ 2.0%	725	665	△ 8.4%
半 導 体 市 場	409	372	360	△ 11.8%	△ 3.0%	823	770	△ 6.5%
F P D 市 場	317	287	317	△ 0.0%	+ 10.3%	610	629	+ 3.1%
自 社 開 発 製 品	654	573	589	△ 9.9%	+ 2.8%	1,246	1,212	△ 2.7%
代 理 販 売 製 品	71	86	88	+ 22.7%	+ 2.7%	188	187	△ 0.4%
売 上 高 合 計	726	660	678	△ 6.7%	+ 2.8%	1,434	1,400	△ 2.4%

(単位：百万円)

# 四半期連結財務諸表

(平成23年4月1日～平成23年9月30日)

## 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

科 目	当第2四半期末 (平成23年9月30日)	前期末 (平成23年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産	2,503,793	2,353,679
現金及び預金	2,109,258	2,054,098
受取手形及び売掛金	247,106	214,975
たな卸資産	5,665	7,207
繰延税金資産	53,208	20,880
その他	90,255	58,017
貸倒引当金	△ 1,700	△ 1,500
固定資産	242,806	298,749
有形固定資産	18,667	29,812
無形固定資産	22,984	22,115
投資その他の資産	201,154	246,821
資産合計	2,746,600	2,652,428
<b>負債の部</b>		
流動負債	355,651	224,954
買掛金	58,011	34,544
未払法人税等	6,066	8,294
賞与引当金	48,016	40,627
前受金	187,814	82,564
その他	55,742	58,922
負債合計	355,651	224,954
<b>純資産の部</b>		
株主資本	2,396,542	2,432,006
資本金	760,007	760,007
資本剰余金	890,558	890,558
利益剰余金	778,653	814,117
自己株式	△ 32,676	△ 32,676
その他の包括利益累計額	△ 5,593	△ 4,532
為替換算調整勘定	△ 5,593	△ 4,532
純資産合計	2,390,948	2,427,474
負債純資産合計	2,746,600	2,652,428

### 1 投資活動によるキャッシュ・フロー

定期預金の払戻、預入に伴うものであり、契約更新時の預入期間の変動によるものであります。

## 四半期連結損益計算書

(単位：千円)

科 目	当第2四半期 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	前第2四半期 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
売上高	678,247	726,720
売上原価	187,402	199,092
売上総利益	490,845	527,627
販売費及び一般管理費	529,124	496,274
営業利益又は営業損失(△)	△ 38,279	31,352
営業外収益	15,486	10,686
営業外費用	1,617	1,118
経常利益又は経常損失(△)	△ 24,410	40,920
特別損失	776	554
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△ 25,186	40,365
法人税、住民税及び事業税	3,357	4,234
法人税等調整額	△ 13,723	11,327
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△ 14,820	24,803
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△ 14,820	24,803

## 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

科 目	当第2四半期 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	前第2四半期 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	92,164	243,091
投資活動によるキャッシュ・フロー	281,847	△411,312
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 19,200	△ 19,200
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 2,485	△ 1,093
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	352,326	△188,514
現金及び現金同等物の期首残高	854,098	981,161
その他の現金及び現金同等物の増減額	2,833	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,209,258	792,646

### 2 現金及び現金同等物の四半期末残高

貸借対照表「現金及び預金」とキャッシュ・フロー計算書「現金及び現金同等物の四半期末残高」との差額は、満期が3ヶ月超1年未満の定期預金9億円の計上基準の違いによるものであります。

## タッチパネルの進化と、ジエダットのFPD 設計ツール『FineQap』

当社のEDA製品群はフラットパネルディスプレイ（FPD：Flat Panel Display）の設計分野で広く使用されています。画素数の拡大、美しさの追求、高速表示、低消費電力、長寿命、低コスト、短期開発など、設計者の課題は尽きることがなく、当社はこれらの課題解決のために様々な設計ツールを提供しています。FPDは基本的には画像等の出力専用機器ですが、これに情報入力機能を複合化した機器がタッチパネルです。タッチパネルはモバイル機器に搭載されたことで急速に普及し進化し続けています。当社製品はこのタッチパネルの設計においても重要な役割を果たしています。

### スマートフォンの登場でタッチパネルは「静電容量方式」が主流に

タッチパネルの歴史は意外と古く、はじめは銀行のATMや駅の券売機などで使用され、その後カーナビや携帯ゲーム機へ用途が広がりました。これらのタッチパネルは、主に押しボタンやキーボードの代わりにするだけの比較的単純なもので、「抵抗膜方式」という技術が採用されていました。

ところが、スマートフォンやタブレット端末では、画面のスクロール機能や、指2本による拡大・縮小機能（マルチタッチ）など、より複雑な操作が求められ、これらの要求に対応するため、新たに「静電容量方式」という技術が用いられるようになりました。「静電容量方式」は「抵抗膜方式」に比べてタッチ感度が優れており、マルチタッチや、方向、速度の感知に対応できることが特徴です。

### 「静電容量方式」のタッチ感度は静電容量の変化の感知で

「静電容量方式」では、タッチ操作の位置や方向、速度を、タッチパネル表面の静電容量の変化量を連続的につかむことによって感知します。このためにタッチ操作を高感度で認識することができるわけですが、逆に、高感度であるが故に意図しない操作まで感知するノイズの問題が大きな課題となります。感度を低くすれば、指のスムーズな動きに追従できなくなりますので、いかにしてベスト解を求めめるかが重要なノウハウとなってきます。また、タッチパネルの将来的な応用として考えられているのは、指をマウス代わりとして使うような機能です。パネルに指を近付けただけで位置を感知し、タッチするとクリックするといった操作です。この機能を実現するためには、さらに高感度のタッチパネルが求められており、ノイズの問題も大きくなります。これらの課題解決のために「感度」≒「静電容量の変化」を高精度に把握して調整することがさらに重要となってきます。

### 静電容量解析ツール『FineQap』の出番

当社製品『FineQap』は、様々な材料の配線や面の静電容量を極めて高精度かつ高速に計算し解析するツールです。一昨年に販売を開始し、液晶パネルおよびタッチパネルの設計において使用されています。FineQapを用いて、設計段階で様々な条件におけるタッチパネルの静電容量を解析することにより、試作回数を削減し、短期間で優れた製品を開発することができます。最近ではタッチパネルメーカー間の競争が激しくなり、また、タッチパネルの材料メーカーなどからも引き合いがあり、FineQapの出番はますます増えています。



## トピックス

### JEDAT EDA Fair 2011 開催

2011年10月19日（大阪会場）、21日（東京会場）に、当社のプライベートフェア“JEDAT EDA Fair 2011”を開催いたしました。今年は『躍進 ~Progress~』をメインテーマとして、従来からの当社のアピールポイントであります「設計生産性の革新」に加えて、出荷後の電子部品の信頼性をさらに高めるための設計段階での取り組みとして、「高信頼性設計」を提唱し、多くのお客様から共感と大きな期待をいただきました。また今回のフェアでは、株式会社デンソー様による基調講演のほか、株式会社DNPエル・エス・アイ・デザイン様、大日本印刷株式会社様、株式会社デンソー様、トヨタテクニカルディベロップメント株式会社様より、ジエダットの設計ツールを利用した成功事例を発表いただき、非常に大きな反響がありました。



### 本사를東日本橋に移転

当社は2011年11月下旬、東京都中央区東日本橋に本社を移転いたしました。新本社は旧本社から徒歩7分しか離れておりませんが、この移転により、業務形態の多様化への対応をより柔軟にするとともに、大災害発生時の事業継続性を一層強化し、合わせて、固定費を大幅に削減します。



## 会社概要 / 役員

### 会社概要 (平成23年9月30日現在)

商号	株式会社ジエダット (Jedat Inc.)
所在地	〒103-0004 東京都中央区東日本橋3-4-14 OZAWAビル (平成23年11月28日より上記住所へ移転いたしました。)
代表者	代表取締役社長 石橋 眞一
営業開始	平成16年2月2日
資本金	760,007,110円
事業内容	電子回路・半導体集積回路・液晶モジュール等設計支援のためのソフトウェア開発・販売及びコンサルテーション
関連会社	株式会社ジエダット・イノベーション (Jedat Innovation Inc.) 福岡県北九州市若松区ひびきの2-5 情報技術高度化センター 績達特軟件 (北京) 有限公司 (Jedat China Software Inc.) 北京市西城区新街口外大街28号B座409-412室 URL <a href="http://www.jedat-soft.com.cn">http://www.jedat-soft.com.cn</a>
所属団体	社団法人 電子情報技術産業協会 (JEITA) 社団法人 日本半導体ベンチャー協会 (JASVA) 一般社団法人 日本エレクトロニクスショー協会 (JESA) 日本EDAベンチャー連絡会 (JEVeC)

### 役員 (平成23年9月30日現在)

代表取締役社長	石橋 眞一
取締役	増山 雅美 (経営企画部長)
取締役	香月 弘幸 (システム部長)
取締役	伊藤 俊彦 ((株) アルゴグラフィックス 執行役員 広報・法務担当)
取締役	伊藤 吉昭*(セイコーインスツル (株) 執行役員 水晶事業部長兼栃木事業所長)
常勤監査役	飯村 雄次
監査役	中村 隆夫 ((株) アルゴグラフィックス 常勤監査役)
監査役	鈴木 想一

※海外赴任により、平成23年10月31日付で辞任いたしました。